みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life のすすめ
No.13

黒田惇彦さん

小美玉市公共ホール運営委員会 委員長

花館区在住。都会育ちだが、「自然が大好き」。今年は野菜の苗を種から育て、たくさんの夏野菜が出来るのを心待ちしている、黒田惇彦さん。

会社人間から大変身

心前向き 毎日充実

みの～れ・小川文化センター・コスモスの3つを統括してどのように運営していくか検討する「小美玉市公共ホール運営委員会」委員長のほか、みの～れで行う事業を企画検討する「四季文化館企画実行委員会」で副委員長を務める。会社勤めの時には持たなかったスケジュール手帳が、「今は必需品」だとか。地域活動で多忙の毎日を送る黒田惇彦さんを取材する。

転勤によって移り住み三五年。自ら「会社人間だった」と語る黒田さんは、「地域に生きる人」として華麗なる転身を遂げた。「毎日を楽しく暮らす！」をモットーに、地域活動と趣味に忙しく飛び回る毎日。きっかけは、定年退職後に務めた区長。「会社で通用していた常識が、地域では当たり前ではないことに気づいた。改めて世間は広いんだと感じた」と当時のことを振り返る。この貴重な体験が、第二の人生のスタートに結びついた。

区長を経験したことで市とのつながりをもち、どんどん地域活動にも参加するようになった。「高齢者が家に引きこもらずどんどん外に出てもらいたい」と考え、現在もボランティアとして活動している「いきいきサロン花館」をつくった。また、県央地域高齢者はつらつ百人委員会の委員や、小美玉市シルバーリハビリ体操指導士会の一員として四季健康館等で活動している。

みの～れとの出会いは、「こころふれあう羽鳥の会」で山口館長と知り合い、足を運ぶようになった。会議だけでなく、毎月定例でドリンク付ライブを企画運営する「光と風のステージプロジェクトチーム」や、お客様を誘導したりチケットもぎりを行う「みの～れ支援隊公演スタッフ」として活動。本来は体を動かすのが好きだという。

「みの～れは本音でお付き合いが出来る素晴らしいところ」と黒田さん。達成感を分かち合えるボランティア仲間にも恵まれている。

趣味も充実。退職を二年後に控え、「定年後に何か出来ること」を模索中、大正琴と出会い、「琴栄会」に入会。男性が少ないことに驚いたという。また、四〇年ぶりにクラシックギターを始めた。ブランクはあったが、「あたって砕けろ」精神で、前向きに挑戦。玉里地区で活動する「玉里ギターフレンズ」の一員として、地域への出張演奏にも取り組み始めている。

地域活動も趣味も「自分のためにやっている」。モットーである「毎日を楽しく暮らす！」の実行の秘訣は、自らの心の持ちようにあると感じた。

（藤田佐知子）